

すがどり
菅鳥



しらまゆみ
白真弓
ひだ
斐太の
ほそえ
細江の
すがどり
菅鳥の

いも
妹に
こ
恋ふ
れか
い
眠を
寝か
ねつる

卷十二—三〇九二 作者未詳

歌意 白真弓の斐太の細江の菅鳥のように妻を恋するからか、私は寝られないことだ

菅鳥は何鳥かについては、いろんな説あります。

斐太の細江は、冠辞考(江戸中期の枕詞辞書。加茂真淵著)によれば「大和の葛城の辺、または高市の巨勢など」とあり、斐太の細江が大和の低山地帯であることから、細江は山地の細い川です。

菅鳥は、低山地帯の細い流れに住む鳥です、菅の根が地中で強く結ばれていて男女の想いの深さを表し、相聞の歌に出てくること、鳴き声が哀愁を感じさせることなどから菅鳥はアカシヨウビン説が似つかわしい。

水恋鳥・雨乞鳥などの俗名があります。